

秋田の土地改良

8

2009・AUG



みどり
水土里ネット秋田

目次

知事あいさつ……………	2	秋田県農業集落排水連絡協議会第18回通常総会……………	10
H21農地・水・環境保全活動組織と国との現地意見交換会…	4	県営経営体育成基盤整備事業坊沢地区・蟹沢地区竣工…	11
耕作放棄地再生現地研修会三種町で開催……………	6	第2回理事会……………	12
秋田県農地集団化推進協議会第49回通常総会……………	7	わくわく探訪開催される……………	15
秋田県土地改良事業団体職員会第49回通常総会……………	8	インターンシップ受け入れ……………	16
地球人会議運営委員会……………	9	会員だより……………	16
21創造運動推進本部員会議……………	9	連合会日誌……………	17

新任のごあいさつ



秋田県知事

佐竹 敬久

会員の皆様におかれましては、日ごろから農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進につきまして、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私はこのたび、県政の舵取り役として、「将来に向けて希望が持てる秋田を実現する」ことを訴え、県民の皆様の御支持により、県政を担わせて頂くこととなりました。県民の信頼と期待に応えるべく全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

県政を取り巻く環境は、経済雇用情勢がかつてないほど悪化していることに加え、国内で最も早いスピードで人口減少が続くなど少子高齢化が急速に進み、地域活力が衰退するなど、深刻な状況にあります。行政も従来延長戦上の施策では立ち行かなくなってきており、新たな視点からの政策が求められています。このため、今後の県政運営に当たって基本的な指針となる新プラン「ふるさと秋田元気戦略（仮称）」を策定し、その実現のために、県として特に重点的に取り組むべきものを、「戦略プロジェクト」として進めていくこととしております。

こうした中であって、将来の秋田の発展にとって核となる産業は「農業」であります。

秋田の元気を語る時、「農業」を抜きに考えることはできません。経済指標だけでは語りきれないほど、県内への影響度は大きく、来るべき時代における需要構造の変化や技術革新を展望し、新産業・新事業の創出など新たな成長戦略をタイミングを逃さず積極的に打ち出すことが秋田の明るい未来を切り開くべき道であると考えます。

昨今、世界的な食料需給環境の変化や国民の自給率に対する関心の高まりなどを背景に国内農業が再評価され、これに対応した国の農業施策の見直しの動きが見られるほか、農業分野への投資も拡大して来ております。食料自給率が全国第2位のわが国屈指の農業県であることから、こうした変化をチャンスととらえ、自然豊かな生産条件を活かした「あきた型農業」の実



サクランボの収穫報告
(生産農家の皆さんと)



県立大学秋田キャンパスにて

現に向けて、新たな視点から戦略的な施策を展開する必要があると考えております。本県では平成21年度を水田フル活用元年と位置づけ、県の基幹産業である水田農業を基軸としながら、大豆や野菜等の戦略作物による複合経営の確立を図り、わが国における食の生産基地を目指すこととしております。

また、農業の生産性の向上と食料供給力の確保を図るためには、良好な条件を備えた農地や農業用水の確保が重要であります。今年度からは、新たに農地集積加速化基盤整備事業を導入し、法人等への集積割合に応じて促進費を交付し、農家負担の大幅な軽減を図り、元気で活力のある地域農業の実現に努めることとしております。さらに、農地や農業用水等の生産基盤は、食料自給力の向上のみならず、多面的機能の発揮に大きく貢献するなど公益性が高いことから、国民が共有する「公共財」として位置づけ、国の責務において、受益者負担を求めない事業制度の創設を検討するよう、先般、国に要望したところであります。

今、農業は大きな変革期を迎えようとしております。地域農業の中核的な役割を担う水土里ネットの皆様におかれましては、時代のニーズに即応した効率的な運営ができるように、確固たる組織体制を早急に整えていただき、今後とも、県が進める施策への御理解と御協力をお願いする次第です。

終わりになりますが、水土里ネット会員の皆様の御健勝と更なる御発展を祈念申し上げ、着任のあいさつといたします。

秋田県 農地・水・環境保全向上対策地域協議会

平成21年度 東北農政局と活動組織との 現地意見交換会



7月16日(木)、横手市平鹿町浅舞（横手市平鹿生涯学習センター）で「農地・水・環境保全向上対策に係る活動組織との現地意見交換会」が開催され、東北農政局職員をはじめ、県内の活動組織、県及び市町村担当者など約140名が出席した。

開会后、会場にほど近い地区で、「樽見内地域資源保全委員会」の活動状況を現地視察し、P P S工法（開水路更生工法）による水路補修、ほ場での鯉の養殖、30 aの花の植栽（夢花壇）などの多様な取り組みを参加者は熱心に視察した。会場に戻った後、地域協議会会長（本会黒子専務理事）、東北農政局大村行整備部農地整備課課長補佐のあいさつの後、県内9活動組織による事例発表が行われた。



P P S工法による水路補修



夢花壇を見入る参加者

事例発表

■大久保農地保全隊（鹿角市）

- ・ホタルの生息調査、EM菌による水質調査、水仙の植栽等
- ・集落全体で行う行事ができ、コミュニケーションが図られた。

■綴子大太鼓の里保全隊（北秋田市）

- ・管理が容易で丈夫なマリーゴールドを植栽。10集落・502名・61団体の規模を誇る。
- ・世代間及び集落間の交流が促進された。事務の簡素化と対策の継続を要望。

■岩子桜の里（八峰町）

- ・鮎の放流、桜の植栽等
- ・地域住民の高齢化対策に役立った。耕作放棄地及び素堀水路の改修等に取り組みたい。

■大潟村農地・水・環境保全向上対策推進会議（大潟村）

- ・ 八郎湖、幹線用水路等の水質改善
- ・ S S（浮遊物質）が40%改善された。対策を継続したい。

■大内三川ほたるの会（由利本荘市）

- ・ かかし制作、ため池の復旧・泥上げ等
- ・ 非農家の参加を呼びかけ、不公平感を生じないように配慮している。

■小松・東前郷地域資源保全協議会（仙北市）

- ・ 田んぼアート、地震の被災地への支援米
- ・ 田んぼアート（秋田内陸線列車）を今年度も実施。「結い」を復活させたい。

■福地地区環境保全会（横手市）

- ・ ヒメイワダレ草の植栽、用水路等の地域のクリーンアップ
- ・ 老若男女の参加により地域の活性化が図られた。運用の緩和と活動の特例を要望。

■樽見内地域資源保全委員会（横手市）

- ・ P P S 工法による水路補修、養鯉等伝統的農法の再現、エコファームの実践等
- ・ 住民の全員参加を促し、マンネリ化を防止に務めている。年度始めに資金が不足するので交付金の早期交付をお願いしたい。

■八面資源保全会（湯沢市）

- ・ 土地改良区との連携による田植えから縄ないまで、小学生の稲作作業体験の完全実施
- ・ 老人会、親子会、児童等の参加による地域社会の纏まりが高まった。対策の継続を要望。

意見交換会

事例発表の後、意見交換会に移り、綴子大太鼓の里保全隊で非農家の参加者が1 / 3にも達しているが、どのような方法を使ったかという質問に対し、「各自治会の会長が呼びかけ、年6回発行の広報誌に掲載している。3年目で活動も定着している」との回答があった。

本対策の継続の見込みについての質問については、各地域協議会の活動の質の向上が大事であり、2期対策の策定にご協力願いたい旨の回答が東北農政局、秋田県からあった。

終わりに、東北農政局の大村課長補佐から「活動も3年目となり、着実に地域に浸透しており、活動を地域の人々が待ち望んでいる。皆様のこれまでの努力の賜物であり、引き続きご尽力下さるようお願いしたい」との発言で締めくくられた。



意見交換



事例発表

耕作放棄地再生現地研修会 三種町で開催

～放棄地の再利用に向けて～



7月23日(木)、三種町西山根において関係者約70名の参加のもと耕作放棄地再生現地研修会が開催された。



黒子会長あいさつ

開催に当たり黒子高夫秋田県耕作放棄地対策協議会長（県土連専務理事）が「今日の研修は耕作放棄地対策の実践活動の一環として、(株)クボタのご厚意により三種地区が耕作放棄地再生支援モデル地区に選定され、三種町耕作放棄地対策協議会のご協力のもと開催するものである。我が国の食料自給率の向上は喫緊の課題であり、農地の有効利用は避けて通れない情勢である。“クボタeプロジェクト”の関係者に御礼申し上げますとともに研修会の成果を期待する」と挨拶した。続いて三種地域耕作放棄地対策協議会より「耕作放棄地の再生により優良農地の確保と農地の有効利用を図りたい」と挨拶があり、加藤勝弘(株)秋田クボタ取締役営業本部長並びに玉置政嗣(株)クボタ機械営業本部東北地区長から挨拶とeプロジェクト及び耕作放棄地に対する取り組みの説明があった。

特に耕作放棄地再生支援については、H20年度、東北地方で岩手県（1団体小麦、雑穀）、福島県（2団体小麦、ソバ）で実施済みであり、H21年度は秋田県、山形県で実施予定とのことであった。

この後、馬力95PSと75PS、重量約3.4t、クローラ（ゴム製無限軌道）を履いたトラクター3台に草刈機＝サイドカッター、耕起作業機＝プラウ4連、碎土・整地機＝バーチカルハローをそれぞれ装着して放棄地の再生作業のデモンストレーションを始めた。

圧巻であったのはサイドカッターによる雑草の草刈りで、人の背丈ほどもある芦原がみるみる刈り取られて元の農地の形状が姿を現した。

その後、プラウで耕起し、バーチカルハローで整地されると20aの荒れ地が約40分で再生され、すぐにでも利用できそうな畑が誕生した。

地元、三種町耕作放棄地対策協議会では、H20年度再生実証試験圃場（畑4.3ha）をとり組み、NPO法人が一部を借り受け、ブルーベリーやソバの栽培を行っており、耕作放棄地再生事業の先進地として一般農業者への波及効果も大きい。



サイドカッターによる草刈



プラウによる耕起とバーチカルハローの整地作業

秋田県農地集団化推進協議会 第49回通常総会を開催

7月3日(金)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田を会場に、秋田県農地集団化推進協議会第49回通常総会が、会員及び関係者ら56名が出席して開催された。総会では、佐々木紘一会長(内越土地改良区理事長)の挨拶に続き、平成21年度農地集団化事業優良地区及び功労者表彰として、6地区と2個人の表彰が行われた。その後、秋田県農林水産部の清野弘久農地整備課長、秋田県土地改良事業団体連合会(水土里ネット秋田)の黒子高夫専務理事から来賓祝辞を頂き、議案審議では、平成20年度事業報告及び収支決算、財政調整基金、会則の一部改正、平成21年度事業計画及び収支予算案などについて審議を行い、いずれも原案どおり可決され、任期満了による役員を選任も行われた。

また、事例発表では、大仙市協和の農事組合法人「たねっこ」代表工藤修氏から転作作目に大豆を取り入れ、水稲180ha、大豆55ha(H19)という大規模化により経営の黒字を成し遂げた事例が発表され、参加者の関心を集めていた。

■新役員

(任期：平成21年7月3日～平成23年総会迄)

- 会 長 佐々木紘一(内越土地改良区)
副会長 高橋 良一(十文字町土地改良区)
〃 小笠原利雄(大館市土地改良区)
理 事 鷺尾 弘(秋田県能代地区土地改良区)
〃 安藤 一郎(雄和中央土地改良区)
〃 仲村 力夫(大仙市大曲土地改良区)
〃 斎藤 喜光(羽後町土地改良区)
代表監事 三澤 敏行(北秋田市綴子土地改良区)
監 事 小松 忠彦(本荘東由利土地改良区)
〃 高橋 周作(秋田県仙北南部土地改良区)

■受賞者

【優良地区表彰】

- ◇蟹沢地区(北秋田市鷹巣土地改良区)
◇坊沢地区(北秋田市鷹巣土地改良区)
◇女米木地区(雄和中央土地改良区)
◇新波地区(雄和土地改良区)
◇大沢地区(河辺土地改良区)
◇杉沢地区(秋田県南旭川水系土地改良区)

【功労者表彰】

- ◇田中 長(琴丘土地改良区理事長)
◇高橋 勝経(美郷町千畑土地改良区理事長)



事例発表



受賞された皆さん

平成21年度 第49回通常総会開催

～秋田県土地改良事業団体職員会～

6月26日(金)、秋田市のシャインプラザ平安閣において会員108団体337名のうち、131名(委任出席175名)の出席を得て、秋田県土地改良事業団体職員会第49回通常総会が開催された。



鈴木会長あいさつ

はじめに、鈴木英弘会長(秋田市孫左衛門堰土地改良区事務局長)より挨拶があり、続いて長年に亘り土地改良区の運営及び職員会の発展に寄与のあった9名に対して、功労者表彰が行われた。

表彰終了後、来賓の秋田県農林水産部の清野弘久農地整備課長、秋田県土地改良事業団体連合会(水土里ネット秋田)の藤原正技監からの祝辞を頂き、議事審議へと移った。

渡辺政彦議長(由利本荘市滝沢堰土地改良区事務局長)の進行により平成20年度事業報告・会計収支決算及び規約の一部改正、平成21年度事業計画・会計収支予算等の議案について、いずれも原案どおり可決された。また、役員

の欠選任も行われ、雄勝支部の矢野二郎(羽後町土地改良区事務局長)が選任された。

■功労者表彰受賞者

- ・杉本 廣子(秋田市旭川筋土地改良区)
- ・真壁留美子(男鹿市五里合土地改良区)
- ・石川 司(八郎潟土地改良区)
- ・堀 芳直(内越土地改良区)
- ・山手 基(秋田県田沢疏水土地改良区)
- ・坂本 智之(秋田県田沢疏水土地改良区)
- ・鈴木真理子(秋田県南旭川水系土地改良区)
- ・深澤 直樹(秋田県南旭川水系土地改良区)
- ・藤原 周悦(羽後町土地改良区)

功労者表彰受賞おめでとうございます。



受賞された皆さん



地球人会議運営委員会開催

7月31日(金)、本会会議室で「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」の平成21年度運営委員会が開催され、役員選任、20年度事業報告・収支決算、21年度事業計画案・収支予算案の各議案が審議され、役員選任では、会長に前会長の高畑進氏を引き続き選任するとともに副会長藤井けい子氏(再任)、監事山上信子氏(再任)、監事佐藤万里子氏(新任)の各氏を選任した。

各議案はいずれも原案どおり可決され、特に9月6日、開催予定の「地球人フォーラム2009」については、本県羽後町出身の岩本公水さんを講師に「離れて想う秋田」を演題に基調講演して頂くことを確認した。

議案審議の後、NPO法人あきたサイクリングタウン推進協議会代表黒崎一紀氏から、「水源地域と用水の関わり」について事例発表を頂き、意見交換の後、会議を閉じた。



高畑会長あいさつ

21創造運動推進本部員会議開催

8月6日(木)、本会会議室で「秋田県21世紀土地改良区創造運動平成21年度第1回推進本部員会議」が開催された。開会にあたり高貝会長(水土里ネット秋田会長)が「この運動も9年目を迎え、昨年は、県内の29地区で活動が実施され、運動が定着して来ている一方、マンネリ化も懸念されている。今後、底辺の拡大を図りながら、更なる運動の継続・拡大に向けて、取り組んで行く必要がある。今後の運営のあり方を含め、農業農村整備の多面的機能を広く理解していただくための問題点について、皆様方のご意見を賜りたい。」と挨拶した。議案審議では、本部長、副本部長が互選され、本部長に高貝久遠会長、副本部長に工藤久兵衛水土里ネット秋田副会長が選任された。続いて、21年度の事業経過につ

いて、「平成21年度秋田県表彰」では、水土里ネット能代東が秋田県奨励賞に決定、東北地方大賞に水土里ネット稲川が推薦され、7月8日開催の東北地方選考委員会で東北地方奨励賞を受賞した旨の報告が事務局よりあった。その後、東北地方奨励賞を受賞した水土里ネット稲川の阿部進課長から、運動の活動状況「どろんこ学校活動報告」の事例発表が行われた。

発表では、水土里ネット内での研修等により役職員の質の向上を図る「内部運動」とため池の土砂吐けと同時にされる児童を対象にしたどろんこ学校、古来からの伝統行事である「雪中田植え」の復活等、多彩な活動を網羅した「外部運動」に分けて説明が行われ、活動のレベルの高さを感じた。

秋田県農業集落排水連絡協議会

第18回通常総会を開催



栗林会長と総会の様子

8月7日(金)、本会会議室で、「秋田県農業集落排水連絡協議会」の第18回通常総会が、20会員(会員総数22団体、実出席44名)、県内8地域振興局農村整備課長の出席のもと開催された。

総会は、栗林会長(大仙市長)を議長に、平成20年度事業報告、収入支出決算について、平成21年度事業計画(案)、分担金算出方法及び徴収の方法(案)、収入支出予算(案)について審議され、満場一致で原案のとおり可決された。

総会終了後、秋田県建設交通部下水道課の小野勇課長から、「秋田県生活排水処理整備構想(第3期構想)」について、秋田県農林水産部農山村振興課の菅原徳蔵課長から「美しい八郎湖の再生・八郎湖水質保全対策について」の講演があった。公共用水域の水質保全の重要性についての内容であり、出席者一同、農業集落排水の果たす役割が益々重要であることを認識したと思われる。

講演終了後、午後から、平成19年新規採択地区から廃止されている「農業集落排水事業」に対する県の助成について、佐竹知事を始め、堀井副知事、知事公室長、総務企画部長、建設交通部長、農林水産部長、秋田県議会議長に対して助成の継続について要請した。要請には、栗林会長(大仙市長)津谷理事(北秋田市長)、加藤理事(八峰町長)、佐藤監事(三種町長)、小野横手市副市長、雲雀仙北市建設部長、富田由利本荘市農林水産部政策監、近江屋大館市建設部長が参加し、土地連黒子専務が同行した。



佐竹知事への要請

要 請 書

農業集落排水事業の推進につきましては、日頃から格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

本事業は農業用水はもとより、公共用水域の水質保全に寄与し、農山村地域の生活環境の改善に不可欠な事業であります。

これまで、県の財政支援のもと、22市町村200地区で事業を取り組み、グリーンツーリズムなどの都市と農山村交流による地域の活性化等にも大きく貢献しております。

このようなことから「秋田県生活排水処理整備構想(第3期構想)」に基づき、今後は主として代替事業のない中山間地域の生活排水処理対策として、一層の事業推進を図ることとしております。

しかし、一方で供用中の処理施設についても、老朽化の進行に応じた機能強化対策を順次実施していく必要もあり、切迫する市町村財政のもとでの新規事業の導入は、県の支援なくしては困難な状況にあります。

つきましては、県財政も厳しい折とは存じますが、農業集落排水事業が中山間地域対策に果たすべき役割や、公共用水域の水質保全は国・県・市町村が一体となって取り組むべき課題であること等をご賢察のうえ、次の事項について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 平成19年度以降採択地区に対する県の助成措置
2. 機能強化対策地区についても同様の助成措置

平成21年8月7日

秋田県農業集落排水連絡協議会

会長 栗林次美

坊沢地区・蟹沢地区

県営経営体育成基盤整備事業竣工

北秋田市鷹巣坊沢地区及び蟹沢地区で実施されてきた県営経営体育成基盤整備事業がこの度竣工し、7月27日、記念碑の除幕式と竣工を祝う式典が執り行われた。坊沢地区は古来、水不足と洪水に悩まされ続け、昭和35年に区画整理され、この度の事業で大区画の近代的なほ場に生まれ変わった。蟹沢地区は、小区画で農道が狭小なため大型機械の搬入に支障を来したほか、地下水位が高く農地の汎用化が困難であった。

事業の完成により、ほ場の大区画化、生産組織の育成による経営規模の拡大、作業形態の省力化及び農業機械の過剰投資の抑制が可能となった。今後は、ブランド米の販売に力を入れる計画である。

式典において長岐洋一北秋田市鷹巣土地改良区理事長は、関係者に謝意を表すとともに「本事業と水田・畑作経営所得安定対策の導入により生産組織が設立され、経営の大幅な合理化が図られることになる。企業の農業への参入により競争が厳しくなる現在、今後とも農業農村整備事業に積極的に取り組んで参りたい」と式辞を述べた。



除幕式

－ 北秋田市鷹巣土地改良区 －

〔坊沢地区事業概要〕

- ・ 事業基幹 H14～H20
- ・ 受益面積 181.9ha
- ・ 総事業費 2,095百万円
- ・ 受益戸数 307戸
- ・ 工事概要

区画整理	181.9ha
用水路	17,740m
排水路	18,449m
道路	26,332m
暗渠排水	179.5ha

〔蟹沢地区事業概要〕

- ・ 事業基幹 H14～H20
- ・ 受益面積 28.4ha
- ・ 総事業費 520百万円
- ・ 受益戸数 39戸
- ・ 工事概要

区画整理	28.4ha
用水路	3,783m
排水路	3,990m
道路	5,184m
暗渠排水	5.8ha



式典

平成21年度

第2回理事会開催

8月20日(木)、本会の第2回理事会と役員会が、高貝会長をはじめ理事11名と監事3名の出席のもと、例年恒例となっている移動理事会として今年度は鹿角市花輪で開催された。

はじめに高貝会長が挨拶に立ち「お陰様で本会の経営の根幹を成す受託事業は順調に推移し、財政調整基金の取り崩しも不要となっている。県営のほ場整備事業の発注方式がプロポーザルに変更になって以来、職員が総力を挙げて取り組んだ賜物である。本日は、20年度決算他5件の案件である。よろしくご審議願いたい」と述べた。

今回の理事会では、平成20年度事業報告及び一般会計収支決算及び財産目録、平成21年度一般会計収支補正予算(案)、諸規程の一部改正について審議され、いずれも原案どおり可決された。

理事会に先立ち6月4～5日監事会が開催され、平成20年度決算監査が実施された。



高貝会長あいさつ

【平成20年度事業報告】

1. 運営指導と研修

(1) 研修

土地改良区役職員研修会、農業農村整備技術強化対策事業研修、換地関係研修会を開催したほか、ブロック及び全国単位の研修会に参加した。

(2) 土地改良区の運営及び施設管理に関する指導

① 水土保全強化対策事業(土地改良施設管理指導事業) 事業費 895万8千円

土地改良区の施設診断、管理や維持管理に関する助言、指導援助を実施

- ・相談指導 45件
- ・施設管理指導 定期診断 92施設 要請診断 46施設

② 水土保全強化対策事業(換地等促進事業) 事業費 624万8千円

県下の換地事務の円滑な業務処理の確立を図るため、各種の研修等を実施するほか、換地業務に関する異議紛争処理対策、農地連坦化促進指導及び農地利用集積推進対策に関する専門的な委員会・会議を設置して、個別に具体的な指導を実施

- ・換地事務指導 4地区 1,007.7ha
- ・農地利用集積推進対策事業地区 4地区 1,135.6ha

③ 農村総合整備センターの活動 事業費 320万円

- ・技術向上対策 各研修会で技術、情報を収集し、市町村及び関係団体へ提供
- ・その他の業務 農村総合整備事業に関する診断指導

④ 土地改良区役職員研修・安全対策

- ・土地改良区役員の意識高揚と職員の資質向上を図るため実施
県内 9会場において実施 776名の参加
- ・農業用の用水路やため池での事故防止のポスターを配布PR

(3) 土地改良施設維持管理適正化事業

① 適正化事業 事業費 16,131万円 28団体 29施設

(4) 基幹水利施設管理技術者育成支援事業

① 地区数 9 (ダム 3 頭首工 3 揚水機 3) 事業費 2,400万円

(5) 土地改良事業振興基金

① 平成20年度期末 151,056,608円

② 全国土地改良大会秋田大会運営協力金として、運用益金より500万円取り崩し

(6) 土地改良負担金総合償還対策事業

① 平準化事業 65地区

② 担い手育成支援事業 9地区 (変更 1地区)

③ 計画償還助成事業 2地区 (変更 1地区)

④ 水田・畑作経営所得安定対策等支援事業 22地区

(7) 秋田県土地改良区統合整備推進協議会

① 合併進捗状況

年 度	基本計画	実 績	進捗率
H20末	118	120	98.3%
H25末	71	—	

② 地区研究会及び運営費に対する助成金

・地区研究会助成金 7組織 140万円

・合併地区運営費助成金 2地区 127万2千7百円

(10a 当たり90円で、100万円まで)

2. 技術的支援

(1) 調査設計受託及び換地業務

(事業受託)

(補助事業)

調査設計受託 6億1,666万円 団体営調査設計業務 800万円

換地・確測業務受託 3億6,412万円

(2) 水土里情報利活用促進事業 事業費 2億7,000万円

本県における農地や水利施設などに関する情報の有効利用を行う為の「地図情報データベース」を整備し、広く提供できる付加価値の高い情報整備を実施

(3) その他の技術支援

① 農業用水資源地域保全対策事業 事業費 1,540万円

農業用水と水源林に係わる理解を深める活動等の実施

② 秋田県農地・水・環境保全向上対策活動支援事業 事業費 2,901万5千円

協議会事務局として活動組織へ活動資金交付事務、会計・活動への指導助言

3. 情報の提供及び広報活動

(1) 機関誌の発行 「秋田の土地改良」 年7回発行 1,000部

配布先 全会員と県内外の関係機関

(2) 各種図書等の配布

季刊「新・田舎人」、「Ante Navi」など

(3) 主な行事

- ① 全国土地改良事業団体連合会 創立50周年記念式典
平成20年9月3日(水) 「虎ノ門パストラル」
- ② 第31回全国土地改良大会秋田大会 (10月14日～16日)
式典参加者 3,921名
- ③ 秋田県土地改良事業団体連合会 創立50周年記念式典
平成20年11月11日(火) 「秋田キャッスルホテル」
- ④ 農業農村整備の集い
平成20年11月18日(火) 「日本青年館大ホール」
- ⑤ 21世紀土地改良区創造運動の推進
土地改良区が果たしてきた役割、機能を改めて振り返り、多面的機能の発揮など国民が期待する新たな役割の実現に向けて土地改良区が地域の人達と一緒に考えて取り組んでゆく運動を支援啓発

4. 要請活動

事業制度の充実など、施策提案・要望等を農林水産省、関係国会議員、県、県市長会、県町村会に実施

【平成20年度収支決算】

▽一般会計

収 入 24億1,715万円 支 出 22億7,799万円

【平成21年度一般会計収支補正予算】

▽一般会計

収 入 17億7,700万円 支 出 16億5,800万円

【基金管理委員の選任】

基金管理委員は若干名とし、理事会の議決を得て会長が委嘱する。

任期：平成21年4月1日～平成23年3月31日

【土地改良施設維持管理適正化資金拠出約款の一部改正】

制度との整合を図る。(施設改善対策事業並びに統合整備連携対策事業の文言削除)

【職員服務規程の一部改正】

現行の職員服務規程において設定されている休憩時間（有給）制度については、国をはじめ各地方公共団体が廃止の措置を講じている。(民間企業において、休憩時間に相当する服務形態がないため) 社会情勢を勘案して、休憩時間の廃止を行いたい。

なお、休憩時間の廃止に伴い、労働基準法第34条1項により休憩時間を1時間与える必要が生じるため、所要の改訂を行う。

区 分	勤務時間	休憩時間	休憩時間
月曜から金曜まで	午前8時30分から 午後5時15分まで	午後零時から 午後1時まで	(廃止)

附則

この規程は、平成21年9月1日から施行する。

**わくわく探訪
開催される！
用水の働きを
探訪しよう**



農業用水がどのようにして確保・供給されているか、その様子を現地で実際に観察し、土地改良施設の果たす役割や農業用水の安定供給に費やす関係者の努力等を学び、農業及び水土里ネットに対する理解を深めてもらうために6月27日(土)、「水土里の郷わくわく探訪」が、美郷町及び大仙市で行われた。秋田市と大仙市の小学生とその保護者65名が参加し、一行は最初の訪問地の美郷町へバスで向かった。美郷町役場（六郷庁舎）では、松田知己町長が「ここ六郷では町の至る所できれいな清水が湧いており、実際に見て、触れて水の大切さを学んでほしい」との歓迎挨拶の後、ボランティアの案内で町内の湧水群を見学した。各湧水では、ハリザッコ（イバラトミヨ）を観察したり湧水に手を入れて、その冷たさを実感したり、口に含んで味わったりと思い思いの感想をノートに書き記した。

その後、地域の重要な水源地である「仏沢ため池」に向かい秋田県七滝土地改良区の武藤威理事長、藤岡義博事務長の説明に聞き入りながら、ため池の大きさときれいに整備された、ため池に感心していたようであった。

次に、ため池等からの用水を取水する関田頭首工と用水を均等に分配する関田円型分水工を見学した。円型分水工は初めての子供も多く、180個あるオリフィス（孔）から流れ出る水に思わず手をやる子供が多かった。

昼食の後、大仙市に移動し、秋田県仙北平野土地改良区で用水管理システムを中心に説明を受けた。土地改良区の受益面積が約10,000haと聞いても実感のわかない子供達も用水管理センターの制御室を見学すると思わず感嘆の声をあげていた。

見学を終えた後、次回も是非参加したいという参加者の声がスタッフの疲れを癒してくれた。



松田美郷町長、ボランティアの皆さん（お世話になりました）



久米清水



仏沢ため池



関田円型分水工



用水管理システム



インターンシップ 受け入れ

農業高校の生徒を対象としたインターンシップを今年度は7月28日(火)～30日(水)、本会事務所及び大湯村他の現地で実施した。

この度の実習生は、県立金足農業高校農業土木科2年生3名で、一行は3日間の実習内容のレクチャーを受けた後、1日目：GISの活用、2日目：最近の測量技術について、3日目：現地研修の日程で、実習に入った。最初のGISでは、国の「水土里情報利活用促進事業」に基づいてシステム構築中の最先端の技術であり、しきりに感心していた。2日目の測量技術については、学校で実習していることもあり違和感も無いようであったが、測量にもGPSを利用するなど技術革新が進んでいることを身を以て体験して貰った。3日目の現地研修では、頭首工、ため池、揚水機場、農業集落排水処理施設、防潮水門及び南部排水機場と主な土地改良施設を一通り見学し、学校の授業だけでは得られないものを自ら体験することができた。



GPS測量機の説明

普段学校の授業では教わることのできないことをたくさん学ぶことができ、とても良い勉強になった。現場研修のため池や排水機場などについて詳しく説明を受け、多くのことを教わり、かけがえのない貴重な体験になった。

櫻庭一喜君

最新の測量技術や学校にはない測量機器の操作等や普段なかなか見ることができない施設を見学して多くのことを学ぶことができた。今回の体験で得た知識を今後の学校生活に役立てたい。

鈴木聖哉君

一番印象に残ったのは地積図の作成で、長時間のパソコン作業は疲れたが、測量に携わっているんだという実感が湧いた。職員の皆さんの苦労に感動した。

大関凱君

会員だより

東北農政局長に宮崎氏が就任

○農林水産省は、異動に伴い東北農政局長に宮崎正義氏(国土交通省水資源次長)を充てる人事を発令しました。(発令：平成21年7月14日)

東北農政局長 宮崎 正義

新理事長就任のお知らせ

次の方々が新たに理事長に就任されました。

○森吉町土地改良区(H21.5.30)
理事長 春日 正一

○二ツ井町富根土地改良区(H21.7.16)
理事長 山谷 幸政

○鳥海町上内堰土地改良区(H21.8.2)
理事長 佐藤 和行

連 合 会 日 誌

6月26日	全国水土里ネット臨時総会	東京都
6月26日	秋田県土地改良事業団体職員会第49回総会	秋田市
6月27日	水土里の郷わくわく探訪	美郷町、大仙市
6月17日	平成21年度土地改良区負担金総合償還対策事業担当者会議	東京都
6月30日	秋田県雄物川筋土地改良区合併予備契約調印式	横手市
7月3日	秋田県農地集団化推進協議会第49回通常総会	秋田市
7月8日	21世紀土地改良区創造運動大賞東北地方選考委員会	仙台市
7月23日~24日	耕作放棄地再生現地研修会	三種町
7月27日	坊沢・蟹沢地区経営体育成基盤整備事業記念碑除幕式並びに祝賀会	北秋田市
7月28日	平成21年度換地事務指導研究会・異議紛争処理対策検討会	札幌市
7月28日	全国農業集落排水事業推進協議会第20回通常総会	東京都
7月31日	あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議運営委員会	本会「第1会議室」
8月6日	秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部員会議	本会「第1会議室」
8月20日	第4回監事会、第2回理事会並びに第2回役員会	鹿角市

今後の行事予定

8月27日~28日	平成21年度東北農地・水・環境保全向上対策連絡会議	秋田市
8月28日	秋田県土地改良事業団体職員会「女性セミナー」	秋田市
9月2日~3日	疏水サミット in 熊本2009	熊本市
9月2日	H21水土里情報利活用促進事業担当部長会議	東京都
9月4日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議(平成22年度予算概算要求説明会)	東京都
9月6日	あきた食料・環境・ふるさとを考える「地球人フォーラム2009」	秋田市
9月11日	平成21年度土地改良関係団体役職員講習会事前打合せ会	本会「第1会議室」
10月28日	第32回全国土地改良大会(島根大会)	松江市
10月30日	第132回秋田県種苗交換会(～11/5)	秋田市

野山の花 コバイケイソウ



これ程の群落は珍しい。
お隣、岩手県にて

編 集 後 記

◆ 本誌紹介の「わくわく探訪」に随行して参りました。農業の機械化等に伴い、子供達が農業に触れあう機会は、農業県秋田でもほとんどなくなりました。人間の生存に欠かせない食料の生産を担う農業の現場を身を以て体験してもらうことは、とても大切なことだと感じました。現在、そのための様々な取り組みが各方面で行われておりますが、水土里ネットでも引き続き運動を継続・展開していく必要があるものと思います。

豪雨、日照不足、地震と日本列島は災害続きです。被災者の皆様にお見舞い申し上げますとともに今後の平安を願う次第です。(総務企画部：堀松記)

表紙写真

向馬口労町竿燈会の出前竿燈(本会会館前にて)

残暑お見舞い申し上げます



「元滝（にかほ市）」

水 土 里 ネット 秋 田 (秋田県土地改良事業団体連合会)

会 長	高 貝 久 遠	理 事	安 保 富 雄
副 会 長	工 藤 久 兵 衛	”	齊 藤 滋 宣
”	三 澤 敏 行	”	安 井 操
専務理事	黒 子 高 夫	”	正 木 正 一
常務理事	水 戸 憲 光	”	柴 田 康 二 郎
理 事	横 山 忠 長	総括監事	畠 山 清 俊
”	由 利 傳	監 事	鈴 木 順 平
”	松 田 知 己	”	藤 井 弘 道